

えりも町議会

議会だより

平成30年2月1日

No.24



P 2-3 平成29年度12月定例会
議長年始挨拶

P 4-6 一般質問4名 6件

P 7 政務活動費について

P 8 複合施設特別委員会

P 9 所管事務調査

P 10 「この人に聞く」
中村さんにインタビュー



えりも町議会第4回定例会

12月定例町議会が、12月15日に開催され条例の改正、予算の補正など提出された議案をすべて原案通り可決し閉会しました。また、4名の議員の一般質問も行われました。

補正予算

一般会計

・衆議院議員選挙費

530万円

・心身障害者対策費

リハビリ施設利用者増等に伴う経費の増

816万4000円

・シカ捕獲報償費

28年度1702頭から29年度2406頭へ捕獲数が増加したことによる買上金の増

556万8000円

・高齢者等冬期生活支援金

灯油価格が2年ぶりの高値となっていることから町民税非課税の高齢者世帯等を対象に1世帯5000円を205世帯に給付予定

102万5000円

介護保険特別会計

・居宅介護サービス給付費
ホームヘルプサービス
やデイサービスの利用者増に伴う給付費の増

2700万円

診療所特別会計

・代診医師報償金

1823万円

国民健康保険特別会計

・一般被保険者療養費
補装具等に係る費用の増

170万9000円

簡易水道特別会計

・施設維持管理費
大雨など緊急対応による施設の維持・修繕費の増

510万円

条例改正

・えりも町職員の給与に関する条例改正
人事院勧告に準じて微増

・えりも町特別職の職員（町長・副町長・教育長）の給与に関する条例改正
職員に準じて微増

表紙の紹介

去る1月5日、毎年恒例の「えりも町消防出初式」が、晴天のなか日高東部消防組合えりも支署で執り行われました。

計7分団から約120名の団員が集結し、精悍な姿が見られた一方、各分団では団員数が減少し、その確保が喫緊の課題でもあります。

・えりも町国民健康保険診療所の医師の給与に関する条例改正
職員に準じて微増

・えりも町職員の育児休業等に関する条例改正
改正

育児休業法の改正に伴い非常勤職員の育児休業期間が、1歳6か月から2歳に延長可能になったことに伴う規定の整備

・えりも町税条例の改正
個人町民税の納付期間を現状2期から4期に変更

・えりも町漁港施設用地管理条例の改正
庶野漁港屋上駐車場へのスロープ化に伴い、町有地を開発局へ売却するために必要な規定の整備

意見書

・全国森林環境税創設に関する意見書
市町村が主体となって実施する森林整備等に必要

な財源を確保するため、国民に等しく負担を求め「全国森林環境税」の早期導入を強く求めるもの

その他

・えりも町青少年問題協議会委員の推薦

青少年教育に関する総合的な施策を調査・審議するため12人で組織される「えりも町青少年問題協議会」の委員に、当議会から川村一治議員を推薦



平成31年度供用開始を目指し建設が進む庶野漁港水産物荷捌施設

【謹賀新年】

戌（いぬ）年を迎えて

えりも町議会議長 成田 一人



本年の干支は、戌戌（つちのえ・いぬ）です。戌の干支の特徴は「勤勉で努力家」と言われています。昨年の「酉」はチャレンジでしたが、本年は一転、着実に物事を積み上げ、実績を積んでいく年となります。

さて、昨年を振り返りますと、えりも町の経済を支える漁業にあつては、昆布漁は平年並みであったものの、秋サケ漁については2年連続となる記録的な不漁となりました。本年以降の町内経済において深く憂慮するところであります。

昨今の我が国をめぐる情勢は、国内外を問わず激しい変化の時代であり、地方自治を取り巻く諸情勢もまた厳しいものがあります。

地方自治体には、本格的な少子高齢化社会の到来による人口減少問題や、公共施設の老朽化対策、自然災害への対応など、直面する数多くの課題があります。町議会としても、議員一人ひとりが議会の果たすべき役割を十分認識し、町議会の一層の活性化を図るとともに、当町が持続的に発展するための施策を積極的に推し進め、次世代へつなげるまちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

私どもの任期も残すところ一年余りとなりましたが、町民の代表機関として、行政のチェック機能を十分に果たしながら、福祉の向上と町政の発展に全力で取り組んでまいりますので、町民の皆様におきましても、さらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

そこが聞きたい！ 一般質問

て、を場執所の明
期待のて、ら
と活動たし、自
に心員わただ議員
議員に議点を、政
は、大政全問を、
問は、重大疑問を
質から町に明言を
一般住民は、重大
一住持で、行政の

問 道徳の教科化について

答 全校をあげて指導力の強化を図る



問 大坂庄吉議員

平成30年度4月から
小学校、平成31年度4
月から中学校で道徳が
教科化される。

- ① 新たな教員免許は必
要か。
- ② 教員によって指導力
に差がでないか。
- ③ 個人評価について
- ④ 授業内容について
- ⑤ 道徳の教科書採択に
ついて

答 教育長

① 教員免許は教科化に
なっても変わらない。

また、「道徳の時間」
が教科化されてもこれ
まで同様、学校におけ
る道徳教育は、道徳の
時間を要としてあらゆ
る教育活動を通じて、
児童生徒の道徳性を図
るものであり、小・中・
高校を問わず、教員養
成課程で学んできたな

かで指導することにな
る。

② 教師に求められる資
質や能力は短期間で身
につくものではないの
で、教職員経験に応じ
て、新採用研修、初任
段階研修をはじめ、6
年目、10年目、11年目
と制度的な公的研修が
保障されている。

当町においては、こ
れら研修に加え、道徳
教育推進教師による指
導、校内授業研修、ミ
ドルリーダー研修、学
校指導主事訪問、月一
回の指導記録の教育委
員会への提出などを通
じて、道徳の指導力を
身につけていく。

③ 評価は、道徳科の学
習状況や成長の様子を
評価し、指導の改善に
は生かすが、入試には
使わない。

その子の内面、他と比
べない個人内評価で学
習状況や道徳性に係る
成長の様子を大きくくり
に記述式で行う。

④ これまでの「道徳の
時間」の内容項目が変
更されるわけではなく、
教科書を導入してすべ
ての学校でしっかりと
道徳の授業が実施され、
いじめ問題への対応の
充実を図るためにも、
小・中学校9年間を通
して体系的に学習して
いく。

⑤ 教科書の採択は全道
統一ではなく、日高管
内教科用図書採択教育
委員会協議会が設置さ
れ、教師や町民からな
る調査員が調査研究を
し、その報告を受け各
町7名の教育長で採択
する。

問 教職員の働き方改革と長時間労働の是正を

答 教職員の資質向上と業務の改善を図る



問 鈴木勇高議員

文科省の公立小中学校教職員の勤務実態調査では、過労死の目安とされる月80時間超の残業を行っていた教職員は小学校で33%、中学校で57%である。

2020年以降は小中学校で英語教育が拡大され、小中学校を通じて道徳も教科化される。益々業務が増えるが長時間労働は正のための考え方は。

答 教育長

教職員の仕事の負担は「教職員の資質・能力」と「仕事の質と量」にある。

当町としても各学校が月1回の定時退勤日を設けたり、残業時には退勤時間を明示すること、業務の精選・重点化を図ること等を指導している。

今後の対策として、
①教職員の指導の充実
②学校全体での協力体制の強化
③業務軽減のための教育政策の抜本的見直し
の他、国においても、教員の定数増、1学級の定数削減、事務的業務を担当する職員やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどの専門職の配置など抜本的な改善を検討していくことが求められる。

問 教職員の指導のあり方について

答 積極的な生徒指導の危機管理を学校に周知徹底していく

問 鈴木勇高議員

文科省の問題行動調査によると、過去9年間に自殺した小中学生のうち「教職員との関係に悩んでいた」と報告があったのは13人である。

①「厳しい指導」「叱責」についてどう考えるか
②今後どのような指導をするのか。

答 教育長

①「生徒指導の不適切な対応」という観点から、「厳しい指導」が基本的人権を侵す場合や生徒の共感的な理解に欠けた指導、生徒の反抗的な態度について感情的になり「叱責」するなど体罰に当たる場合もある。

教師の生徒指導の基本が欠け、教師としての資質能力や指導力に問題があると言える。

また、最近の生徒の内面は極めて複雑かつ今日的な課題を含んでおり、生徒の養育段階や家庭環境を踏まえてのきめ細やかで慎重な対応が求められる。

②当町は次の5点、
・事例や直近の事案を基にした生徒指導の研究

・授業や部活動など管理職の日常観察と指導助言
・各学校の生徒指導委員会や交流会、町内全体の生徒指導連絡協議会など組織体制の充実
・教育相談や体罰調査
・家庭や関係機関との連携など、不適切な指導の防止に向けて進めているが、今後も「積極的な生徒指導の危機管理」を学校に周知徹底していく。

問 複合施設に図書館は必要か

答 検討委員会の意見を反映させていく



問 石川昭彦議員

現在、町で計画中の複合施設に図書館も含まれているようだが、利用者の為には建物より中身の充実こそが大切であり現在の場所での整備で良いのではないか。複合施設には風呂・プール・運動設備の充実こそが求められるのではないか。

答 企画課長

図書館を現在の場所で整備となると、福祉センターを存続するとの前提になり「老朽化」

「耐震性」「大規模な修繕を含む維持管理費」等の問題や課題がでてくる。

複合施設については今後、基本設計の担当者を決め、それぞれの機能をどのレベルにもっていくかも含め町民代表による検討委員会の意見を反映させながら基本設計を進めていきたい。



より一層充実が期待される図書館

問 サケ定置の不漁対策は

答 関係機関と連携を密にしていく

問 石川昭彦議員

町内のサケ定置網漁は2年続けて不漁で非常に苦しい状況にある。主産業の漁業の中でもサケ漁は昆布に次ぐ大きな柱であり、不振が続くと漁業者だけではなく水産加工業等にも影響が大きく、産業衰退・人口減少に拍車がかかる事が心配される。

そこでサケ稚魚の間育成や歌別川の水量増加の為の植林・造林に取り組むつもりはないか。また、原因についてどのように考えているか。

答 産業振興課長

サケの不漁は町内経済への影響も大きいことから、引き続き漁協や関係団体、各機関と連携を密にして協議・

検討していきたい。不漁の原因については水産研究所や試験場、北海道大学などで調査・分析を行っているところであり、その対策についても今後検討がなされるものと考えている。

中間育成については町内3か所から合わせて1520万尾が放流され、さらにえりも岬漁港からも海中飼育したものが200万尾放流されている。

しかし、今年は回帰率が悪く、定置業者から増殖事業の見直しの意見が出されており、今後も各団体と協議して参りたい。

歌別川の水量増加策としては、これまでも行っている旧肉牛牧場での分収造林を水源林造成事業とし、面積を拡大していきたい。

問 映画を起爆剤に植育ツアーでまちおこしを

答 積極的に国の交付金事業に応募していく



問 高松亮裕議員

浦河町出身の田中監督が浦河、様似、えりも、広尾の4町の資金協力を得て、4〜5年後の完成を目指しえりも岬の緑化事業を題材とした映画「北の流水（仮）」を制作中である。制作のための協力はもちろんだが、映画完成後、これをどう町作りに生かすのか真剣に考えなければならぬ。地球温暖化によると思われる異常気象が世界

各地で頻発し、その原因とされる二酸化炭素

の排出量を削減する為、木を植え森を育てる事が大切であるということもよく知られており人々の環境に対する意識が高まっている時代であるといえる。

一度の植樹で終わりはなく、自分の植えた木が生長していく過程をインターネット等でいつでも確認できるようにすることで関心を持ち続けること、植樹、下草刈り、枝払いと継続的に植育ツアー

に参加してもらえれば、将来にわたってえりも町の大きな観光資源になり得る。
森づくりに積極的な企業やグリーンツーリズムを主体とした旅行会社と連携し推し進める考えはないか。

答 産業振興課長

えりも岬の緑化事業地は当町としても重要な観光資源の一つとして考えている。

全国「レクリエーションの森」の中から「日本の美しの森お薦め国有林」として93か所選定した中の一つに「えりも風景林」が選ばれ今年度から老朽化した木道の修繕やえりも岬百人浜までの遊歩道の整備、多言語による標

識の設置など環境整備を行っていく。それに合わせて、緑化事業を体感する様々なプログラムの開発やガイド養成等、植育ツアーの企画も含めて積極的に国の交付金事業に応募したい。



2006年に植えたクロマツが3m以上に生長している百人浜植栽地

政務活動費ってなに？

・政務活動費ってなに？

議員が政策の立案のための調査・研究に役立てる目的で、報酬とは別に支給されるお金のことです。

・いろいろな不祥事が発覚しましたね

195回もの不可解な出張を繰り返し、号泣会見した兵庫県議や不正受給で14人が相次いで辞職した富山市議会など、記憶に新しいですね。

・道議会も話題になりました

2010年度の政務活動費（当時は政務調査費）をめぐる住民訴訟で、札幌地方裁判所は一部の支出を違法とし、高橋はるみ知事に対し返還を求めるよう命じました。

・どうして不適切な支出はなくならないの

その使途は道議自身が作った条例で決められています。その定めは厳格ではなく、道議が「道政に必要な活動に使う」と主張すれば、事務局や第3者委員会も支出をやめさせる強制力はないそうです。

・今後の課題は？

飲食費への支出は認めないなど、道議自らが市民感覚に沿った使用基準に見直すと同時に後払い方式の導入、インターネットでの公開が必要だと言われています。

・えりも町議会には？

政務活動費は支給されておらず議員報酬のなかから毎月5千円を積み立てて道内視察研修などに充てています。

複合施設特別委員会

複合施設特別委員会 委員長 川村 一治
 副委員長 上野 勝廣
 委員 渡部 泰 石川 昭彦 平野 正男
 大坂 庄吉 笹谷 廣喜 高松 亮裕
 橋本 維応 鈴木 勇高
 議長 成田 一人

調査日 平成29年11月17日(金)

複合施設の建設計画について

本施設の建設場所、事業の計画、今後のスケジュール等について担当者から説明を受けた。

町の公共施設は、高度成長期に建設されたものが大半であり、利用開始から40年以上が経過し老朽化が著しく、維持管理費の増大に加え、建替えの検討も必要となっている。

また、耐震性にも問題を抱えていることから、えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「公共施設の複合化」を実施事業とし、具体的な取組を行うこととされている。

人口減少社会にあって、町が持続的な発展を遂げるために、「町民の学びと憩い、文化創造の交流拠点」を施設整備の基本理念とし①誰もが利用しやすく、交流を深められる施設、②周辺環境に配慮した施設、③省エネ対策等による経済効率の高い施設を基本方針として、「福祉センター」、「温水プール」、「高齢者センター」を統合し、この3施設の代替施設として、町営陸上競技場の敷地とその北側の未利用地に建設することとされている。

施設の主な機能としては、ホール、町民交流、学習・研修、図書館及び健康増進の各ゾーンで構成され、その基本設計を策定するため、プロポーザル方式による設計委託を予定している。

平成34年度 利用開始

今後のスケジュールとして、平成29年度から基本設計、平成31年度に実施設計、平成32年度から建設工事を行い、平成34年度に供用を開始するとの方向が示された。

調査の結果、本施設の現段階における建設計画については概ね了承した。

本施設の建設は、えりも町にとって半世紀にあるかないかの一大事業である。町財政の厳しい状況での建設となることから、機能面などに創意工夫を凝らして極力総事業費の抑制を図るとともに、有利な財源確保に努め、長期にわたり町民から愛され、親しまれる施設とされたい。

また、本施設においては、特に町民の関心も高いところであることから、地区別懇談会、自治会長会議、町広報紙など、広く周知するとともに、十分町民の理解が得られるよう説明責任を果たされたい。新たな町のシンボルとして、また周辺環境に配慮した経済効率の高い施設が建設されることを望むものである。



福祉センター、図書館



高齢者センター



建設が予定されている
陸上競技場

プロポーザル方式とは
 プロポーザル方式は、主に業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に、複数の者に目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定し、町側の意見を反映させながら進められる方式である。

二常任委員会 所管事務調査

総務文教常任委員会	委員長	渡部泰
副委員長	笹谷廣喜	委員
鈴木勇高	橋本維応	
産業民生常任委員会	委員長	大坂庄吉
副委員長	平野正男	委員
石川昭彦	高松亮裕	議長
		成田一人

調査日 平成29年10月31日(火)

① (有)エクセルマネジメント所有財産の購入について

本件については、9月の定例会において、既に全会一致で可決しており、今後の利用について現地調査を行った。購入した財産は、土地約84.5ha、建物1棟であり、民間企業への土地貸付けにより繁殖豚事業を検討している旨、担当課から説明を受けた。



繁殖豚事業 建設予定地
(大和アバヤキ川周辺)

当事業については、新規雇用の場が確保され、固定資産税等の歳入が見込めることから、早期に実施できるよう協議を進めていただきたい。

その際、周辺住民への影響を配慮し、騒音・臭気対策を講じるとともに、近隣の河川はサケが遡上することから、糞尿処理について水質基準をクリアするための排水施設を検討し、環境に配慮することを強く要望する。また、購入した他の土地については、未利用地とせず有効活用できるよう検討願いたい。

② 栽培漁業えりもセンターの復旧状況について

3月に火災が発生した本施設の復旧工事は、概ね完了しており工事額は、1,100万880円となっている。費用の負担割合は、公益社団法人北海道栽培漁業振興公社及び日高管内栽培漁業推進協議会がともに4分の1、えりも町栽培漁業振興協議会が2分の1で、そのうち、えりも漁業協同組合が10分の4、えりも町が10分の6の330万円である旨、担当課から説明を受けた。



火災が発生した栽培漁業センター

現地調査の結果、被害のあった場所については概ね復旧していることを確認できたが、はっきりとした原因は不明であった。今後の施設管理や運営のためにも、北海道や関係機関と様々な課題について協議・検討し、再発防止を徹底するとともに、火災警報器や防犯カメラ等の設置、施設の保険への加入等を強く要望する。

③ 防犯灯LED化事業について

本事業は、電気料金の高騰などにより、防犯灯に係る自治会と町の財政負担の軽減を図ることを目的として、自治会で管理している防犯灯を町に移管し、国の補助事業を活用して一斉にLED化し、町が民間業者と10年間のリース契約をするものである。本事業は、調査事業と導入事業に区分され、国の補助事業を活用するには、単年度で完成させることが求められたことから、町にとってメリットのある委託先を選定できるプロポーザル方式により委託業者を決定し、調査事業に係る経費799万2,000円、導入事業に係る経費6,321万8,000円で発注している。調査の結果、531灯が取替の対象となり、導入事業に係る経費は、器具の見直しに伴い7,394万9,760円となった旨、担当課から説明を受けた。町財政の厳しい中、当初の目的遂行のためにも、速やかに事業を完了していただきたい。なお、導入事業の実施に当たっては、事故のないよう十分注意願いたい。

本町地区のLED防犯灯



この人に聞く

えりも町農業委員
なかむらさちこ

中村 幸子さん



Q 趣味や好きなことは？

A バレーボールは子どもの頃からやっています。

お茶や琴も習いましたが今はステンドグラスの組立に少しはまっています。

Q 農業委員のほかにバレーボールの指導もしていますね？

A 子ども達と接するのはとても楽しいことですし、自分に出来ることはなるべく引き受けて、少しでも町というか、何かのお役に立ちたいと思っています。

今回の「この人に聞く」は、えりも町農業委員の中村幸子さん。プロフィールは、えりも町本町出身、えりも中学校を卒業後、浦河高等学校から苫小牧駒沢短期大学食物栄養学科に進学し、卒業後えりも町内に就職。現在に至る。(取材・石川)

Q えりも町がどんな町になればいいと思いますか？

A 人口もだんだん減ってきているので、就学のために町を出た子ども達が帰って来て就職や起業が出来る町になって欲しいと思っています。議員の皆さん頑張ってください。

・ありがとうございました。



えりもバレー少年団の練習風景

編集後記

一年で最も寒い季節になりましたが町民の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今回も悪戦苦闘の末に「議会だより」が出来ました。

発行や編集などには元々素人の議員ばかりで始めた仕事でしたが早くも5年が過ぎました。町民の皆さんに少しでも議会の事を知って頂きたい、信頼される議会になろうという思いで毎回頭を悩ませて編集をしています。一か月、一年先も見通せない世の中ですが強い意志や目的を持ち続けることが新しい道を切り拓くことにつながると思います。去年のえりも町は希にみる不漁でしたが、今年が良い年になる事を期待し、町民各位の健康とご活躍を期待致します。(石川)

議会の動き

11月2日	イキイキ森林づくり事業
11月3日	えりも町功労者表彰式
11月7日	第8回子ども議会
11月17日	複合施設建設特別委員会
12月8日	議会運営委員会
12月15日	全員協議会 第4回定例会 広報広聴常任委員会
12月21日	日高東部消防組合議会 日高東部衛生組合議会
1月5日	えりも町消防団出初式
1月7日	成人式
1月16日	広報広聴常任委員会

広報広聴常任委員会委員

委員長 高松 亮裕
副委員長 大坂 庄吉
委員 川村 一治
石川 昭彦
橋本 維応